

1950年国勢調査結果概要

1950年12月1日に行われた1950年国勢調査は、わが琉球の戦後人口の全貌を知る唯一の実験的な調査資料として、その結果の発表については、大いに期待され又要望されていたのである。

今回その調査結果について琉球民政本部より公表されたので、ここに許された範囲内での発表をなし、関係者の利用に供することにした。

1 公表の範囲

以下琉球民政本部企画統計課の承認を得て、全琉球の集計結果について公表する。

琉球列島における1950年国勢調査結果のうち人口概数については、さきに917,400人と発表されたのであるが、今回の公表は人口に限らず就業状態、産業及び職業、文筆能力、住宅関係、引揚者関係などあらゆる調査項目にわたっている。

調査結果は、全琉球、群島別に分類して取りまとめられたのであるが、この分類による結果数字については、市町村別は一部に止めた。また主要項については男女別に掲げ、その他は総数についてのみ公表し、男女別、年齢別に及んでいない。

2 報告内容についての注意

統計表の利用に当っては、次に掲げ諸点に留意されたい。

(1) 今回の国勢調査の人口は、各人を調査時にその人が現在していた世帯で調査した現在人口である。

(2) 本表の人口は、すべて調査票から直接数え上げた確定数であるから、さきに発表された概数とは必ずしも一致しない。

人口概数は、すなわち市町村において国勢調査員によって調整された照査票より集計した市町村要計表を基礎にして算出したもので、従って数字の上に多少の異動があるから使用されるときは特に注意されるよう申添えておく。

(3) 本表の結果数字には外国人も含んでいるが、連合軍の将兵、連合軍に付属し又は随伴する者、琉球列島米国民政長官の承認した使節国及び外国政府の公務を帯びて琉球に駐在する者並びにこれらの者の家族は含んでいない。

3 国勢調査確定人口

1950年12月1日午前零時現在で調査された1950年国勢調査の結果、全琉球の人口総数は別表のように914,937人と発表された。

今回の国勢調査の人口には、第二次世界大戦後海外から引揚げてきた176,762人をふくみ、又主に米軍の地区工作隊(デストリック、エンジニア)管下のいわゆる軍工事を請負っている日本土建業者の技術雇用者6,352人の日本人と、フィリッピン、中国、朝鮮、南米等の各国から来ている外国人1,731名が含まれている。

但し外国人のうち米国軍人、軍属やそれらの者の家族及びその他占領軍関係者等は含まれていない。

1940年10月1日に行われた国勢調査から今回の調査の時まで、10年2ヶ月間に増加した琉球の人口は158,237人(20.8%)に及んでおり、この前に行われた1944年2月22日の

人口調査からは約6年9ヶ月の間に144,057人すなわち19%近く増えたことになる。

琉球住民(琉球に本籍を有する者)の人口は、1940年10月1日現在で軍人、軍属をふくみ742,172人であった。1950年12月1日現在に依れば、906,854人で前回の国勢調査より22%の増加となっている。

1 人口総括

A 群島及び男女別人口 1950年12月1日現在

群島	人口			総数を100とした比率(%)	男100に対する女	世帯数	一世帯当り人口
	総数	男	女				
全琉球	914,937	429,432	485,505	100.0	113	152,304	4.59
沖縄群島	580,223	271,450	308,773	63.4	114	85,398	4.62
奄美群島	216,110	100,524	115,586	23.6	115	46,553	4.35
宮古群島	74,618	35,652	38,966	8.2	109	12,122	5.28
八重山群島	43,986	21,806	22,180	4.8	102	8,231	4.73

B 本籍又は国籍別人口

本籍又は国籍		総数	男	女
総計		914,937	429,432	485,505
琉球にす本籍者	総数	906,854	425,175	481,679
	沖縄群島に本籍を有する者	572,001	266,350	305,651
	奄美群島に本籍を有する者	217,797	102,044	115,753
	宮古群島に本籍を有する者	79,297	38,290	41,007
	八重山群島に本籍を有する者	37,759	18,491	19,268
日本人		6,352	3,327	3,025
外人	総数	1,731	930	801
	比島人	81	43	38
	中国人	80	63	17
	朝鮮人	29	23	6
	アメリカ合衆国人	73	34	39
	南米人その他	120	66	54
		1,348	701	647

(注)外国人のうちには、連合軍関係と外交関係の人々は含まれていない。

4 国勢調査人口について前回との比較

次に琉球における既往の調査結果と比較すれば下表の通りであって、全琉球の人口は917,875人となっているが、これは1940年に行われた国勢調査に依る人口759,638人に比較して20.8%の増加である。

2 群島別人口の推移 (1920-1950年)

群島	1920年 (大正9年)	1925年 (同14年)	1930年 (昭和5年)	1935年 (同10年)	1940年 (同15年)	1944年 (同19年)	1950年 (同25年)
全琉球	785,421	764,874	785,294	797,134	759,638	773,818	917,875
沖縄群島	486,411	465,981	482,691	492,626	475,766	491,912	580,223
奄美群島	213,849	207,785	207,785	204,640	185,059	183,554	219,048
宮古群島	53,098	61,367	61,367	65,761	64,418	63,416	74,618
八重山群島	32,063	33,451	33,451	34,107	34,395	34,936	43,966

(注)1. 本表の数値は、いずれも現在地主義によるものであって、1940年以前は10月1日、

1944年は2月22日、1950年は12月1日の現在人口である。

2. 1940年の人口は、軍人、軍属を含む。

3. 1944年の人口は、軍人、軍属、及び外国人を除く。

4. 1950年の人口には、外国人(連合軍及び外交関係を除く)及び対日講和条約の規定により1951年12月5日、日本に帰属した奄美群島の十島村(2,938人)を含んでいる。

次の表は、現在琉球列島を構成している地域においてこれまで5年毎に実施されてきた国勢調査の結果資料より摘要したものである。以下各項目につき戦前の統計数字を掲げ参考に供する。

3 行政区別人口 1920年-1944年

調査年次	全琉球	沖縄県	鹿児島県大島郡
1920年	785,421	571,572	213,849
1925年	764,874	557,622	207,252
1930年	785,294	577,509	207,785
1935年	797,134	592,494	204,640
1940年	759,638	574,579	185,059
1944年	773,818	590,264	183,554

(注) 1920年-1940年は、軍人、軍属および外国人を含み、1944年には軍人、軍属及び外国人を除外してある。

なお前2回の国勢調査における人口を琉球住民につき比較すれば次の通りであって人口は逐年増加している。下表の如く1940年より1950年迄の約10ヶ年の間において琉球住民は742,172人より906,854人すなわち164,682人と著しく増加している。

4 群島別琉球住民人口

調査年次	全琉球	沖縄群島	奄美群島	宮古群島	八重山群島
1940年	742,172	465,670	179,592	63,322	33,588
1944年	773,818	491,912	183,554	63,416	34,936
1950年	906,854	572,001	217,797	79,297	37,759

(注)1940年-1944年の人口は、軍人、軍属及び外国人を除き、外地人を含んでいる。

1950年の人口は琉球に本籍を有する者の総数で、その中には奄美群島十島村の人口(2,938人)を含む。

全琉球 5 国勢調査人口の累年比較(1920年-1950年)

調査年次	面積 (方軒)	人口	1方軒当 り人口	前回調査に比し増減(Δ 減)	
				実数	比率(%)
1920年	3,677	785,421	214
1925年	3,677	764,874	208	Δ20,547	Δ2.6
1930年	3,677	785,294	214	20,420	2.7
1935年	3,677	797,134	217	11,840	1.5
1940年	3,677	759,638	207	Δ37,496	Δ4.7
1945年	3,677	773,818	210	14,180	1.9
1950年	3,677	917,875	250	114,057	18.6

- (註)
1. 1940年の人口は軍人、軍属(17,377)外地人(1,094)及び外国人(89)を含む
 2. 1944年の人口は軍人軍属および外国人を除く
 3. 本表の人口および面積には奄美群島十島村を含んでいる

上の表において明らかなように、1940年の国勢調査にくらべると人口は158,237人増加し、一方軒当りの人口は1940年の207人からみると人口の著増に伴い250人に大幅な増加となっている。

戦後琉球列島の人口は急激な増加を示しているが、この増加は自然増加(出生と死亡との差)のみによって生じたものと断定することはできない。人口の流入と流出との差すなわち社会的増加も計算に入れなければならない。今にわかに結論は下せないにしても、前回の国勢調査の結果に、人口動態から得られる毎年の自然増加および復員引揚、海外渡航者数並びに今次沖縄戦の犠牲者(学童を入れて殆んど20万人に近いと推定される)など考慮に入れなければ比較はできないのである。

国勢調査人口につき1940年センサスとの比較は前述の通りであって、戦後人口の増加は自然増加が著しかったことにも原因していたであろうが、主として日本および海外各地域よりの復員引揚者に起因するものと考えられる。

日本よりの大規模な引揚者送還計画は1946年8月15日より始まり1950年12月迄には実質的に完了したのである。1940年国勢調査当時における海外在留の琉球人については正確なる資料が得られないが、88,324人以上の沖縄人が日本(各府県)に在住していたようである。

終戦時における在外琉球人は40万内外であったといわれている。その中1950年11末日までに帰郷せる者(約18万人と概算される)がこの調査に含まれている、人口の増加は自然増加及び社会増加によってもなれされたものであるが、やはり増加したものの大部分は復員並びに引揚者であって、引揚者の影響などによる人口の著増が如実に示されている。

6 人口の流入及び流出 (1946~1950年)

全琉球 A 復員及び引揚者							
年次	総数	日本	台湾	米国	ペルー	ハワイ	その他
1946年	112,014	103,637	7,627	431	-	-	319
1947年	7,738	7,676	62	-	-	-	-
1948年	2,607	2,607	-	-	-	-	-
1949年	1,585	1,558	-	23	4	-	-
1950年	856	838	-	5	10	-	3

B 移民					
年次	総数	日本	米国	アルゼンチン	その他
1946年	4,566	4,566	-	-	-
1947年	3,265	3,186	79	-	-
1948年	1,026	889	104	33	-
1949年	782	491	59	117	115
1950年	612	264	1	303	44

- (注)1. 集団引き上げは1946年8月に始まり1949年まで行われた。終戦直後より1946年8月に至る数字は所要資料の欠如、散逸、不備などのために収録できなかった。此の期間において琉球への復員引揚者は約30,000人で、琉球よりの引揚者(軍人軍属を除く)は200人以内と推定される。
2. 日本よりの復員引揚者の中には、朝鮮、満州、中国、シベリア等より日本本土を経由して引揚げた者を含んでいる。
3. 1946年8月1950年12月の日本への引揚者及び移民には一時とう留者及び商人、土建業者並びにこれらの者の雇用者のような非永住者も含まれる。

全琉球についてみれば1920年10月1日より1940年10月1日まで、丁度20ヶ年間に於いては、現在人口は比較的安定した数字を示しているが、次の表に見るように1920年にくらべると25,783人も減少している。

人口の減少は、内容的に見れば自然的増加よりも社会的減少の方が遙かに上回っている傾向がうかがわれるが、これは主として日本本土はもとより、外地、或いは海外各地域への移住者の遷増による人口の著減が如実に示されている。

7 1920年-1940年の人口増加とその割合

	1920年	1940年	1920年国勢調査に比し人口の増減(Δ減)	
	(大正9年)	(昭和15年)	実数	比率(%)
全琉球	785,421	759,638	Δ25,783	Δ 3.3
沖縄群島	486,441	475,766	Δ10,645	Δ 2.2
奄美群島	213,849	185,059	Δ28,790	Δ 13.5
宮古群島	53,098	64,418	11,320	21.3
八重山群島	32,063	34,395	2,332	7.3

次に之を各群島に就て見れば減少率の最も大きいのは奄美群島の13.5%で、沖縄群島では2.2%の減少を示している。八重山群島ではむしろ7.3%の増加を示し、又宮古群島ではその傾向が極めて大きく21%以上の増加を示している。

1944年2月22日行われた人口調査にくらべると総人口は144,057人(19%)増加している。但しこの比較は、1944年の人口調査が、調査範囲や調査項目などの定義において、他の国勢調査と同一基準になっていないので、これら結果数字の相互間の比較は多少の無理を伴うため、実質的な増加については細部にわたり検討する必要があるが、人口の推移の大勢を知るには差支えないと思われるので、そのまま掲げる事にした。なおこの調査は1944年2月22日すなわち沖繩戦の始まる1ヶ年前に行われたものであって、この調査の目的は日本政府が人的総動員体制を企画するという軍事上重大な活動を遂行する上に必要な軍務および軍労務に関する資料を整備することにあつた。

今次大戦において物的損失もさることながら、人口も未曾有の大打撃を蒙って多数の死傷者を出し終戦までの戦没者は16万5千人余と概算されている。

戦時中わが琉球の人口は如何なる推移を辿つたであろうか。1944年(昭和19年)を最後としてその後の人口事情は公表されていない。現在判明しているのは1944年までであつて、それ故に終戦後における人口事情はなおこれを知悉することの出来ないのは甚だ遺憾である。

わが琉球の人口は1944年に773,818人であつたが、1950年には917,875人に達し、この6ヶ年間に14万余の増加があつたわけである。しかし1944年の人口と1950年の人口とはその構成内容に極めて大なる差異があることを注意しなければならない。

8 群島別人口 1940年-1944年

群島	1940年10月1日		1944年2月22日	
	人口	比率	人口	比率
全 琉 球	742,172	100.0	773,818	100.0
沖 繩 群 島	465,670	62.8	491,912	63.6
奄 美 群 島	179,592	24.2	183,554	23.7
宮 古 群 島	63,322	8.5	63,416	8.2
八 重 山 群 島	33,588	4.5	34,936	4.5

(註)

- 1944年の人口は軍人及び外国人並びに刑務所感化院等特殊施設に収容されている者216名(男210、女15)を除き外地人を含んでいる。
- 1940年の人口は、軍人、軍属(17,377)及び外国人(89)を含んでいる。
- 本表の人口には、奄美群島十島村を含む

9 主要島しょ別人口 1940年-1944年

群 島	1940年10月1日			1944年2月22日		
	総 数	男	女	総 数	男	女
全 琉 球	759,638 (742,172)	355,914 (338,502)	403,724 (403,670)	773,818	345,402	428,416
沖 繩 群 島	475,766 (465,670)	222,564 (212,517)	253,202 (253,153)	491,912	219,585	272,327
沖繩本島	435,681	202,874	232,807	449,158	199,126	250,032
久米島	13,414	6,686	6,728	13,755	6,479	7,276
渡嘉敷島	3,725	1,777	1,948	4,171	1,914	2,257
粟国島	2,768	1,270	1,498	2,802	1,277	1,525
渡名喜島	945	388	557	1,130	497	633
伊平屋島	6,362	2,956	3,406	7,157	3,284	3,891
伊江島	6,816	3,206	3,610	7,489	3,567	3,922
鳥島	211	128	83	232	115	117
大東島	5,844	3,279	2,565	6,000	3,326	2,674
奄 美 大 島	185,059 (179,592)	85,234 (79,768)	99,825 (99,824)	183,554	80,073	103,481
大島本島	91,484	42,047	49,437	89,411	38,567	50,844
喜界島	18,184	7,510	10,674	17,810	7,110	10,700
徳之島	40,951	19,532	21,419	42,691	19,861	22,830
沖永良部島	22,987	10,763	12,341	22,202	9,564	12,638
与論島	7,889	3,715	4,174	7,904	3,357	4,547
十島	3,564	1,757	1,807	3,536	1,614	1,922
宮 古 群 島	64,418 (63,322)	30,629 (29,533)	33,789 (33,789)	63,416	28,944	34,472
宮古島	52,333	24,920	27,413	50,799	23,188	27,611
伊良部島	8,453	4,004	4,449	9,027	4,120	4,907
多良間島	3,632	1,705	1,927	3,590	1,636	1,954
八 重 山 群 島	34,395 (33,588)	17,487 (16,684)	16,908 (16,904)	34,936	16,800	18,161
石垣島	20,837	10,432	10,405	21,818	10,439	11,379
西表島	8,978	4,787	4,191	8,615	4,302	4,313
与那国島	4,580	2,268	2,312	4,503	2,059	2,444

- (注)1. 伊平屋島の人口には伊平屋、伊是名両村の人口を含む。
2. 括弧内の数字は軍人及び外国人を除いた人口である。

5 琉球の人口構成

10 年齢階級別人口

年齢階級	全琉球	沖縄群島に本籍を有する者	奄美群島に本籍を有する者	宮古群島に本籍を有する者	八重山群島に本籍を有する者
総数	906,854	572,001	217,797	79,297	37,759
5才未満	144,334	94,710	29,906	12,930	6,788
5-9才	100,851	64,142	23,188	9,457	4,064
10-14	110,352	71,689	24,526	9,536	4,601
15-19	100,790	64,103	23,516	8,943	4,228
20-24	78,181	48,530	18,948	7,223	3,480
25-29	60,503	37,379	14,929	5,473	2,722
30-34	51,600	32,660	12,482	4,283	2,175
35-39	46,397	28,974	11,195	4,245	1,983
40-44	42,042	25,414	10,785	4,082	1,761
45-49	37,444	23,204	9,470	3,228	1,542
50-54	32,476	20,012	8,366	2,806	1,292
55-59	30,808	18,599	8,734	2,373	1,102
60-64	25,316	15,203	7,518	1,842	753
65-69	19,116	11,418	5,824	1,320	554
70歳以上	26,644	15,964	8,410	1,556	

上の表において明らかに見られるように、戦時中の出生率は急激な減少を示している。この期間に生れた子供、すなわち国勢調査当時5-9才の幼児数は僅かに100,851人にすぎない。これによって戦争がわが琉球の人口及び出生率に及ぼした影響が実に深刻なものであったことが判る。

又1才未満の人口は36,299人で、これらの乳児が15-44才までの妊孕可能な女子により琉球列島内で出産されたものと仮定するならば、国勢調査当時の出生率は妊孕可能な女子1,000人に付341人となる。ところで、国勢調査において集計された36,299人の乳児人口の中には、琉球列島外で生まれ、1950年11月30日までに引揚げた者で、調査当時琉球列島内に現在した者も含まれている。しかしながら自然増加要因のうち出生は主として女子の年齢別人口(妊孕年齢のみを考えればよい)と、年齢別妊孕率によって定まり、実際問題としてはこれらの人口は上記の出生率にそれ程影響を及ぼすものでないと思われる。そこで同じ仮定の下に1940年における出生率は妊孕可能な女子1,000人に付201人であった。

人口構成上特に注目される点は、琉球の人口が若い人々によってその大部分を占められているということである。1950年12月1日現在によれば、全琉球人口の約三分の二(65.6%)は30才以下で、中間年齢は米国の30才に対して琉球では20才よりやや下回っている。

琉球住民の平均年齢が概して低いこと、すなわち若い人々が人口の大部分を占めているということは、現在の出生率及び死亡率と密接な関係があるようである。国勢調査人口における男女性比について見れば、琉球では過去の調査でもそうであったが、次の表に見るように1950年の調査でもやはり男100人に対し女113人となっていて、女子が男子よりも多いということは琉球人口の特徴として注目されることである。女子の人口は総人口の53%に当たる485,505人で、その中には64,513人の寡婦が含まれており、その大部分が今次大戦で夫を喪った人々である。

次に成人人口について見れば、20才以上人口は450,527人(内男194,387人、女256,140人)で

男女性比は男子100人に対して女子132人何れの場合でも女子の割合が多く、人口構成における女子の高率を物語っている。

前2回のセンサスにおける男女別人口につき比較すれば、1940年において其の比は男子100人に対して女子113人であったが、1944年においては軍関係が調査から除外されているので、男子人口の島外流失の結果、男子100人に対して女子122人と増加している。1950年の国勢調査では男子100人に対して女子113人と同率となっている。

6 出生率及び死亡率

現在一年間の出生率は人口1,000人に付35人で、死亡率は人口1,000に対して8人となっている。戦後米国の援助や指導により保健、公衆衛生面が著しく改善され、その結果死亡率がうんと低くなったのである。すなわちこれは衛生思想の進歩発達と徹底が最も大きな原因と思われるが、今一つの原因として今日のように主食の配給制度においては、ややもすれば届出を遅らせ又は届出でない場合が多いようであって、必ずしも適格に行われなかったということもあつたと考えられる。従って人口動態調査が事実上正確に調べられないことも幾らか影響していると考えていいだろう。しかしその影響はそれ程大きなものでなく、むしろそれよりも30歳以下の人々が人口の過半数を占めていることや、官民の協力によって保健衛生面の改善拡充に絶えず努力がなされてきたので死亡率も低下の傾向を辿っているといえよう。

11 群島別男女人口比

群島	男女計		男	女	男100に対する女
	総数	総数を10とした比率(%)			
1950年12月1日現在					
全琉球	914,937	100.0	429,432	485,505	113
沖縄群島	580,223	63.4	271,450	308,773	114
奄美群島	216,110	23.6	100,524	115,586	115
宮古群島	74,618	8.2	35,652	38,966	109
八重山群島	43,986	4.8	21,806	22,180	102
1944年2月22日現在					
全琉球	773,818	100.0	345,402	428,416	124
沖縄群島	491,912	63.6	219,585	272,327	124
奄美群島	183,554	23.7	80,073	103,481	129
宮古群島	63,416	8.2	28,944	34,472	119
八重山群島	34,936	4.5	16,800	18,136	108
1950年12月1日現在					
全琉球	759,638	100.0	355,914	403,724	113
沖縄群島	475,766	62.6	222,564	253,202	113
奄美群島	195,059	24.4	85,234	99,825	117
宮古群島	64,418	8.5	30,629	33,789	110
八重山群島	34,395	4.5	17,487	16,908	97

(註) 1 1940年~1944年の資料は極東軍総司令部1950年5月発行の"琉球列島戦前人口及び雇用"による。但し本表の人口には、対日講和条約規定により1951年12月5日、日本

に帰属した十島村の人口を含んでいる。

1944年 3,536人(男1,164 女1,922)

1940年 3,564人(男1,757 女1,807)

2 1940年の人口は、軍人(17,377人)及び外国人(89人)を含む。

3 1944年の人口は、軍人及び外国人を含まない。

4 1950年の数字は、十島村の人口及び外国人のうち連合軍関係と外交関係の人々は除かれている。

7 人口密度

産業の振興、経済の安定等が強く要請されつつある現下の情勢の中において、これらの問題の一環として琉球列島における人口過剰は相当深刻な問題であるだけに注目されることである。

例えば1940年には1平方哩につき588人というちゆう密な人口密度を示している。これは日本本土の529人、アメリカ44人に比べ遥かに高率である。戦後の琉球人口は、引揚者(1950年12月1日までに176,762人)の受入れに伴って急激なる人口増加を見るに至り、わが琉球の人口の問題を更に深刻ならしめている。

次の表について見れば生産可能地に対比して人口密度の高いことを示している。

12 人口密度 1950年12月1日現在

土地の種類	土地面積		単位面積当り人口		人口一人に付土地面積	
	平方哩	エーカー	平方哩	エーカー	エーカー	
総数	1,291	826,333	709	1.1	0.90	
工作可能地	417	266,922	2,194	3.4	0.29	
耕地	総数		228	145,647	4,013	6.3
	田		38	24,010	24,077	38.1

(註) 1950年国勢調査確定人口914,937人を基礎にして算出した。

但し総人口の中には対日講和条約規定により日本に帰属した奄美群島十島村の人口(2,938人)を含んでいない。

これによると耕地面積に対する人口密度は人口一人に付0.16エーカーであり、今これを人口過剰の面で同じような状態にある日本と比べて見ると、日本では0.15エーカーであって、ほぼ相等しい数字を示している。

ところで琉球の水田面積は全耕地面積の16%であるが、日本においては実にその55%が水田で、高度の生産的様相を示している。従って経済的な意味における人口密度は、却つて琉球の方が遥かに高いと云えよう。

次に欧米諸国における1935~1937年の一人当りの耕地面積(畑)を掲げ参考に供する。

米合衆国、カナダ 3.5エーカー ロシヤ 1.9エーカー ヨーロッパ(ロシアを除く) 1.0エーカー
アジア(ロシアを除く)は0.7エーカーとなっている。

なお群島別の対耕地面積人口密度を見ると、各群島間に相当の開きがあることが分かる。

下記の表は1950年の人口密度を1940年と比較したものである。

13 群島別対耕地面積人口密度 (一平方哩当り)

群島	総面積に対する人口		耕地面積に対する人口	
	1950年	1940年	1950年	1940年
全琉球	709	588	2,194	1,821
沖縄群島	1,070	878	2,901	2,379
奄美群島	527	451	2,316	1,988
宮古群島	899	776	1,265	1,092
八重山群島	171	133	679	531

今回の国勢調査によると約9,000人の人々が奄美、宮古、八重山群島より沖縄群島に移住している。これらの寄留者のうち大多数(5,106人)が奄美群島に本籍を有する者である。

沖縄群島に次いで寄留人の比較的多いのは八重山群島であって、そこには人口密度の高い土地より低い土地への人口移動を促進せんとする政府の企画と援助によって、沖縄群島より3,105人又宮古群島より3,057人が移住している。ところが八重山群島は面積において全琉面積の20%、人口においては僅かに5%を占めているが、その耕地面積は41,514エーカーで土地面積の25%に過ぎないためにこの地域への移住は将来或る程度制限されるものと考えられる。

14 人口密度

群島	土地面積 (方軒)	1950年(昭和25年)		1940年(同15年)	
		人口	密度	人口	密度
全琉球	3677.24	917,785	250	759,638	207
沖縄群島	1500.69	580,223	387	475,766	317
奄美群島	1289.00	219,048	170	185,059	144
宮古群島	250.01	74,618	298	64,418	258
八重山群島	637.54	43,986	69	34,395	54

(註) 1 面積は参謀本部陸地測量部の5万分の1地形上における1940年1月26日の調査を基礎にして算出したものである。

2 沖縄群島の面積は、硫黄島(2方軒)を含んだ数字である。

3 奄美群島の面積には、十島村(18.39方軒)を含む。

4 人口密度は、群島別面積をもつて算出された1方軒当たりの人口である。

上の表で見ると全人口の半分以上(58%)の580,223人は総面積の35%を占める沖縄群島に集中しているが、これは戦後復員引揚者等の受入れで総人口が著しく膨張したことにも原因しているが、その他軍工事及び進駐軍関係の労働需要が高まるにつれて他群島、特に奄美群島より相当数の人口が沖縄本島に移住しているというようなことが考えられる。沖縄の場合は、進駐軍関係の従業者の割合が多く、産業構造上における軍労務の経済的重要性を物語っている。

沖縄本島では、その3分の2に相当する人口が中部及び南部地区に集中している。すなわち中部及び南部には琉球の首都である那覇市を始め首里、石川の二市、二町(糸満、与那原)及び26村があり、又軍施設及び軍部隊も殆んどこの地域に所在している。

そして40万以上の人口がこの地区(268平方哩)の中に居住している。一方人口においてその3分の1以下、すなわち125,059人が北部地区(186平方哩)に住んでいる。更にこれを人口密度について比較すれば中部及び南部地区は1平方哩当り2,192人であり、これに対し北部地区は僅かに

467人であって著しい差異が認められる。

全琉球の市部及び町村部の人口割合は次表の通りである。

15 市部、市町村別人口及び割合

群 島	総 数		市 部		町 村 部		市部及び町村部の割合	
	市町村数	人 口	市の数	人 口	町村の数	人 口	市	町村
1950年12月1日現在								
全 琉 球	87	917,875	6	162,332	81	755,543	17.69%	82.31%
沖縄群島	56	580,223	3	82,593	53	497,630	14.23	85.77
奄美群島	21	219,048	1	28,970	20	190,078	13.23	86.77
宮古群島	6	74,618	1	30,897	5	43,721	41.41	58.59
八重山群島	4	43,986	1	19,872	3	24,114	45.18	54.82
1940年10月1日現在								
全 琉 球	78	759,638	2	83,302	76	676,336	10.96	89.03
沖縄群島	48	475,766	2	83,302	46	392,464	17.51	82.49
奄美群島	21	185,059	-	-	21	185,059	-	100.0
宮古群島	5	64,418	-	-	5	64,418	-	100.0
八重山群島	4	34,395	-	-	4	34,395	-	100.0

(註) この表の数字には奄美群島十島村の人口(1950年-2,938人、1940年-3,564人)を含む。

上の表において見るように、市部の割合が著しく増加を示している。これは戦後市の数が増えたことにも原因するが、戦後人口の増加したものは大部分が引揚及び疎開人口の復帰によるものであるが、その他農村人口の都市集中の傾向がうかがわれる。

16 人口一万人以上の市町村人口

1950年12月1日

市町村(群島)	人 口	市町村(群島)	人 口	市町村(群島)	人 口
那覇市(沖縄)	44,790	読谷村(沖縄)	16,574	小禄村(沖縄)	12,923
具志川村(同)	32,369	城辺町(宮古)	16,517	亀津町(奄美)	12,435
真和志村(同)	30,935	與那城村(沖縄)	16,197	笠利村(同)	12,083
平良市(宮古)	30,897	美里村(同)	16,120	国頭村(沖縄)	12,000
名瀬市(奄美)	28,970	宜野湾村(同)	15,930	古仁屋町(奄美)	11,987
本部町(沖縄)	21,010	今帰仁村(同)	15,398	浦添村(沖縄)	11,910
首里市(同)	20,014	知名町(奄美)	15,049	伊良部村(宮古)	11,433
石垣市(八重山)	19,872	名護町(沖縄)	14,842	羽地村(沖縄)	11,122
越来村(同)	18,431	糸満町(同)	14,835	勝連村(同)	11,012
石川市(同)	17,789	和泊町(奄美)	13,259	喜界町(奄美)	10,999
伊仙村(同)	17,716	天城村(同)	13,043	東天城村(同)	10,140

8 労働力人口

琉球の労働力は比較的に豊富である。すなわち労働力人口は、1950年12月1日現在において400,514人で、総人口(琉球に本籍を有する者の総数)のおよそ44%に当り、しかも14才以上人口の77%を占めている。

労働力人口の男女別割合は、男220,954人に対し、女191,890人ではほぼ相半ばする数字を示し

ている。

次に就業状態について見れば、労働力人口の殆んどすべてが就業者であって、極く少数の者(5,851人)が休業者である。

又失業者は極めて僅少であって、1,413人に過ぎない。そして就業者の65%が農業、3%が林業及び水産業に従事している。次の表に見るように、沖縄群島の労働力人口は235,375人で、全琉球労働力人口の59%に当り、全琉球の農業林業及び水産業以外のいわゆる非農業に従事している就業者数の80%近くは沖縄群島において働いている。

全琉球について見れば、農業、林業及び水産業の割合が多く、産業構造上における農業の重要性を物語っている。又住民の経済生活の源泉として商工業に比べて農業が相対的に極めて重要な位置を占めていることがわかる。

次に農業、林業及び水産業以外のいわゆる非農業に従事している者の分布は下記の通りである。

中央政府、群島政府及び市町村役場に勤務している者	5%
進駐軍関係の雇用者	9%
卸売及び小売業	6%
サービス業	4%
土木建築請負業	3%
製造業	3%
その他	3%

17 農業、非農業別労働力人口

1950年12月1日現在

群 島	総 数	農業、林業、水産業		その他の産業	
		人 口	比率(%)	人 口	比率(%)
全 琉 球	399,082	270,013	67.6	129,069	32.4
沖縄群島	235,375	132,343	56.2	103,032	43.8
奄美群島	109,510	94,331	86.1	15,179	13.9
宮古群島	35,997	30,549	84.8	5,448	15.2
八重山群島	18,200	12,790	70.3	5,410	29.7

9 非労働力人口

本調査の結果、非労働力人口は172,283人で、その中には調査週間中に収入のある仕事をしなかった人で、仕事を持っておらず、しかも仕事を探さなかった人、例えば家庭に於ける主婦などの如く専ら家事に従事していた者、学生生徒、病気、老年、不具病疾等のため働くことのできなかった者、その他働く必要のない者、刑務所の収容者、特殊病院の入院患者が含まれている。

18 非労働力人口 1950年12月1日現在

	人 口	比 率(%)
総 数	173,283	100.0
家 事	90,488	52.2
通 学	41,618	24.0
就労不能	34,440	19.9
その他及び不詳	6,777	3.9

10 文筆能力

琉球における文筆不能者、すなわち10才以上の者のうち読み書きのできない者は、171,859人で、これは10才以上人口661,669人の4分の1(26%)で、全琉人口の19%に当る。

又女子の文筆不能者は113,854人で、男子文筆不能者58,005人に比較すれば約二倍の高率を示している。50才以上の文筆不能者は全文筆不能者の53%となっている。そこで50才以上の文筆不能者を除外して考えるとすれば、その割は10才以上人口の19%、つまり全琉人口の9%が読み書きができないということになる。

戦前に於ける文筆不能者の数は資料の欠如などのためはっきりしたことは分かっていない。しかしその数はむしろ現在より遙かに下回っていたことは明らかである。

戦前の日本では国民に普通教育が広く行きわたっており、この点で理想に近い状態ということができ、従って文筆不能者は、男が5.6%で、女は11%であった。